



日本医療バランスト・スコアカード研究学会

ニューズレター

第 24 号 平成 22 年 3 月 4 日発行

発行 HBSC 学会事務局

発行責任者 渡辺 明良

〒104-0031

東京都中央区京橋 2-17-3 ヨシザワビル 2 階

TEL 03-6228-6787 FAX 03-6228-6788

e-mail : info@hbsc.jp [URL:http://www.hbsc.jp](http://www.hbsc.jp)

学会事務局からのお知らせ

1. ご挨拶

バランスト・スコアカードが医療領域で浸透してきて 10 年以上が経ちます。本学会が第 1 回学術総会を開催したころは、様々な人々が、様々な思いや思惑で本学会に入会されましたが、現在は個人会員として、賛助会員として学会を運営されている方々は、個人会員 380 人、賛助会員約 40 法人となり、現在は、年間で入会と退会がおおよそ同じ人数になっています。

本学会は、医療系学会としてみると、規模的には大きいとはいえませんが、社会科学系学会としてみると、会員規模、予算として比較的大きな部類に入ります。また、本学会は、医療系の類似の学会と比較すると、学術総会の参加比率で大きな特徴がみられます。それは会員数に比較し、学術総会の参加者比率が高いことです。各回、200 人から 400 人の学術総会への参加がありました。特に、昨年の横浜での第 7 回学術総会は、400 人以上の参加があり、個人会員数を超える学術総会の参加がありました。また、このような活発な活動の源泉は、学術総会の担当機関と学術総会会長のご努力によることです。同時に、会員個人個人の積極的な意志によることにありますが、その他に、企画・研修委員会（福井次矢担当理事、渡辺明良委員長）、研究委員会（大道久担当理事、須藤秀一委員長）学会誌編集委員会（長谷川恵一担当理事、佐藤貴一郎委員長）の活発な委員会活動があると思います。

本学会は、会員数が 500 人あるいは 1000 人を超えていませんので、地方部会あるいは、月例研究会などを開催するには体力的に難しいですが、企画・研修委員会により、BSC 導入ワークショップ（1 泊 2 日）を年 2 回、医療 BSC ファシリテーション勉強会および医療 BSC 実践指導者認定を年 1 回、BSC フォーラムを年数回実施というようなことが、地方

部会に代わるものとして見ることはできないのではないかと考えています。

さらに、研究委員会では、全国から委員の方々が月 1 回集まり、その年に決定されたテーマにそって研究して頂き、本学会にとって必要な話題や研究成果を毎年確実に学術総会で発表して会員と成果の共有を図っています。

また、学会誌編集は、地味な仕事で、大変な努力が必要ですが、担当理事、委員長、委員の方々のご努力で、人数が少ない中、丁寧にまとめていただいております。

さらに、学会事務局（事務局長：渡辺明良）の皆さんには、理事会、評議員会、学術総会、フォーラム、ワークショップ、雑誌編集委員会、研究委員会と様々な業務を丁寧にやってもらい、昼間本業を抱えながらボランティアの本来の姿である「自発性」と「1 人 1 人の思いを社会のために活かす」ことを前面に出して BSC の医療への普及と正しい理解に向けて努力して頂いています。

本学会の現状はこのように運営していますが、今後は、①会員数の増加への施策 ②学会事務局のボランティア部分を減らし、永続するシステムづくり ③会員のニーズに合った企画研修と支援 ④医療 BSC の広い利用、有効な活用のための施策 ⑤広く医療 BSC の理解を広めることが、本学会を持続性ある学会、役立つ学会、存在意義のある学会にしていくには必要なことと考えています。

本年も、理事会、評議員会、各種委員会、事務局が積極的に考え、動き、会員の皆様とともに BSC の医療での応用と成果を上げることにまい進していきたいと考えておりますので、今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

日本医療バランスト・スコアカード研究学会
会長 高橋 淑郎

2. 第7回学術総会を終えて

開港 150 周年を迎える横浜港を一望する会場にて、多数のご参加をいただき大変な盛会のうちに閉会いたしました。秋晴れの好天のもと、お陰様で参加者は450名近くに達し、特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーをはじめ、一般演題発表18演題、ポスター発表10演題、全ての会場がおおいに盛り上がりました。また、どの会場においても活発な質疑・討論が見られ、今後の経営マネジメントにおける、BSC活用への期待の大きさ真剣さをあらためて実感する一日でありました。

閉会后、場所を変えて懇親会を催しましたが、こちらも事前予想をはるかに上回る200名の方が参加され会場は超満員となりました。港の夜景を見下ろしながら、横浜ならではの中華料理に舌鼓をうち、ひとときの歓談を心ゆくまで楽しみました。また今回は特に、一般演題およびポスター発表から優秀演題5題を表彰し、その功績をおおいに讃えあげました。

第7回学術総会は、開会から懇親会まで活況を呈しましたが、はからずも運営を担当した事務局スタッフも充実感と達成感を共有しあえる最高の機会となりました。

ご参加いただきました皆様方にはあらためて御礼申しあげるとともに、準備から当日まで多大なるご尽力をいただきました学会役員および事務局の皆様方に深く御礼申しあげたいと思います。なお、次回第8回学術総会は、森 功 学術総会会長（医療法人医真会理事長）により、大阪ビジネスパークにて2010年11月20日（土）に開催されます。多数の皆様方のご参加をお願い申し上げますとともに、本学会のますますの発展を祈念致します。

第7回学術総会会長 高野 靖悟
(JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院 病院長)

3. 理事会・評議員会のご報告

平成21年11月22日（土）に第18回理事会・第9回評議員会を開催いたしました。理事会では、各委員会の活動報告、第8回学術総会の準備状況報告、新規入会者の承認、学会認定ファシリテーターの承認などがおこなわれました。また、3/12・13におこなわれる「日本大学総合研究助成による医療BSCの国際シンポジウム」の本学会による後援が承認されました。

評議員会では、次期役員選出がおこなわれ承認されました。会長には高橋淑郎理事が推薦され承認されました。

【各委員会活動報告】

- 企画研修委員会
 - ・ ファシリテーション勉強会準備・開催
 - ・ 導入ワークショップ準備
 - ・ 学会認定BSCファシリテーターの企画
- 研究委員会
 - ・ 本年度の研究調査概要の検討
 - ・ 予備調査の仮設と質問項目の検討
- 雑誌編集委員会
 - ・ 学会誌第6巻1号の原稿収集
 - ・ 学会誌第6巻2号の原稿収集

【会員数報告】

個人正会員 361名
賛助会員 37団体 (2009/10/31現在)

4. 今後の学会活動のご案内

- 2/27-28：導入ワークショップ
- 3/6：第19回理事会
- 3/12：医療BSC国際シンポジウム（東京）〈後援〉
- 3/13：医療BSC国際シンポジウム（京都）〈後援〉
- 5/15：HBSCフォーラム
- 6/26：BSCファシリテーション勉強会（理論編）
- 7/31-8/1：導入ワークショップ・BSCファシリテーション勉強会（体験編）
- 9/4：BSCファシリテーション勉強会（認定試験）
- 11/20：第8回学術総会

5. 医療BSC国際シンポジウムのご案内

平成20、21年の日本大学総合学術助成による研究成果の発表と共有のためのディスカッションの会を開催いたします。「医療におけるバランスト・スコアカードを有効に活用するために」をテーマに利用意図・成果とその評価方法を国際比較し、成果を共有。個別病院から医療政策でのBSCの可能性をまでを考えます。

【東京会場】

日時：3/12（金）9：20～17：00
場所：全国町村会館 ホールA

【京都会場】

日時：3/13（土）9：20～17：00
場所：メルパルク京都 会議室B

※参加料無料（資料代は実費となります。3千円）
同封の申込書に記入いただきFAXにてお申し込みください。学会のホームページも案内が掲載されています。

6. 平成 21 年度個人・賛助会費納入のお願い

平成 21 年度の年会費をまだ納めていない方にご案内を致します。郵便局に備え付けの振込み用紙にて下記口座にお振込み下さいますようお願い申し上げます。なお、年会費の期間は平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までとなります。

- ◆振込先 : 牛込郵便局
- ◆口座名 : HBSC 研究学会
- ◆口座番号 : 00170-9-757885
- ◆年会費 : 個人正会員 : 10,000 円
賛助会員 : 100,000円 (一口)

7. 【コラム】 B S C 指導者試験に思いを込めて

理事 塩田龍海

学会が創設されて 7 回目の春です。顧みれば、発起人として設立に携わり、爾来 B S C 研究学会の学術総会、フォーラム、導入ワークショップ、出版物の執筆、編集、そして、学会外の活動でも医療機関や介護事業の B S C 導入の支援活動に携わってきました。

創立総会 (第 1 回学術総会) は市ヶ谷の日本大学講堂で開催され、会場は多くの参加者の熱気が溢れんばかりでした。当時は医療機関もコンサルタントもシステムベンダーも経営学者も、まるで B S C という麻疹に罹ったような熱狂ぶりだったと思います。その後の変遷をみると、B S C を導入できなかつたり、導入に失敗したりということでブームを追っかける人たちが舞台から去り、真剣に B S C に取り組む人達だけが役者として舞台にいるように思えます。B S C は決して万能な経営ツールではないことを、身を以って学んだ人達が何処かへ去ったのでしょう。

B S C 導入や運用に失敗したその原因は様々ですが、誤った B S C の導入と運用が横行している感があります。私達、医療バランスト・スコアカード研究学会は正しい B S C を研究し普及定着させ、B S C を必要とする人達が我流に陥ることがないように正しく導く使命があると思っています。B S C は実務に役立てるためのツールであり、そのためには細事には拘らない多様な手法があつてよいと思います。しかし、B S C には外してはいけない本質部分もあります。その部分を確りと押さえた手法でなければ B S C と呼ぶべきではないと私は思っています。B S C の導入事例を拝見した中には戦略マップが描かれていない例、因果連鎖や成果尺度が明確でない事例も結構見かけます。

酷い事例だと「4 つの視点」を使っているから「B S C」と言っているようなことすらあります。

こういう事例を見るたびに、私たち学会の関係者が果たさなければならない使命は非常に重く、未だその責任が果たせていないのではないかと痛感させられています。

私自身は浅学で経験に乏しい未熟者ですが学会内部でお世話になっております故に、学会が主導している B S C を正道 B S C として普及して行きたいと思っています。このような思いに駆られて、私は昨年学会が主催する第一回の医療 B S C 指導者試験を受験し、そして合格しました。まだ始まったばかりの試験制度であり、ご存じない方も沢山いらっしゃると思います。この場をお借りして是非多くの方に医療 B S C 指導者試験を受けて頂き、指導者として正しい B S C の理解とその普及のために一緒に力を合わせて頂きたいとお願ひ申し上げます。